

# 開発か、購入か： ベストなアプローチを選択するには

世界中のあらゆる規模の金融機関にとって、成功するには決済のモダニゼーションが極めて重要です。業界の変化の影響を受けない金融機関などなく、適応を迫る圧力は増すばかりです。

アイテ・ノバリカ・グループが実施した最新の調査では、金融機関がいくつかの分野で苦戦していることが示されています



既に決済取引額の10%以上をフィンテック企業に奪われたと答えた銀行の割合  
信頼性の高いサービスがないことが、顧客の新規獲得の妨げになっていると答えている銀行の割合  
レガシーシステムとの統合に関する技術的な課題が、新商品やサービスの導入の妨げになっていると答えた銀行の割合  
決済取引額の増加を見込んでいる銀行の割合

このような課題に取り組むため、資産規模や地域を問わず、さまざまな金融機関で投資の大幅な拡大が見込まれています

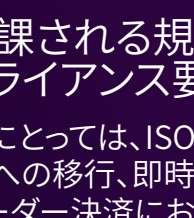
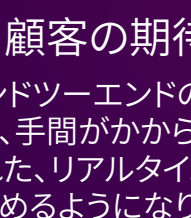
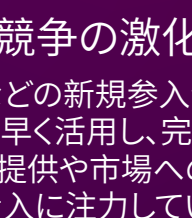
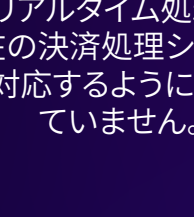
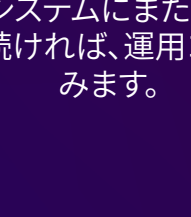
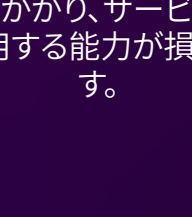


決済テクノロジーへの投資の増加または現状維持を見込んでいる銀行の割合

## 決済がもたらす無限の可能性

既存のバックエンド決済システムを更新してアップグレードし、進化する決済事業のニーズに応えるにしても、その複雑性やコストが銀行に重くのしかかっています。後れを取らないようにするには容易なことではありません。その上、極めて複雑で断片化された決済サービスや変化し続ける需要を手作業で管理しているため、革新する能力だけでなく、サービスを適時かつ効率的に提供し運営する能力さえも損なわれています。

## 決済環境における課題

 <p><b>頻繁に課される規制・コンプライアンス要件</b></p> <p>金融機関にとっては、ISO 20022進捗メトリクスへの移行、即時決済の導入、クロスボーダー決済における選択肢の強化、不正防止などが業務の更新やコンプライアンスのために大きな負担となっています。</p>	 <p><b>顧客の期待</b></p> <p>顧客はエンドツーエンドの体験の改善（直感的で、手間がかからず、パーソナライズされた、リアルタイムの操作）をますます求めるようになり、透明性とセキュリティが低コストで確保されることへの期待も高まっています。</p>	 <p><b>競争の激化</b></p> <p>フィンテックなどの新規参入企業は、クラウド技術をいち早く活用し、完全にデジタル化した体験の提供や市場へのイノベーションの投入に注力しています。</p>
 <p><b>複雑性の高まり</b></p> <p>市場では規制、クリアリング・スキーム、顧客の要求が急速に変化するともに、取引高が増加しリアルタイム処理が拡大していますが、現在の決済処理システムはこの新しい動向に対応するようにはデザインされていません。</p>	 <p><b>コストの上昇</b></p> <p>サイロ化された断片化されたレガシーシステムにバッチ対応しながら、維持管理し、複数のシステムにまたがって手作業の処理を続けられ、運用コストは膨らみます。</p>	 <p><b>市場投入の遅れ</b></p> <p>現在のシステムやプロセスを用いて複雑なサービスを絶えず変化する環境を管理することに手間がかかり、サービスを適時に開発、提供、運用する能力が損なわれています。</p>

したがって多くの銀行は、既存のレガシーシステムでは現在も将来も要件に対応できず、各決済ルールで多大な投資が必要であることに気付いています。

重要なのは、その機能を自社開発するか、それともベンダーから購入するかの決定です。この決定に役立てるべく、メリットとデメリットを以下にまとめました。

<p><b>自社開発</b></p> <p>顧客の特定のニーズや運用環境に合わせることが可能</p> <p>顧客側に、独自性が高くベンダーのソリューションでは利用できないビジネスサービスがある場合、または顧客がそのようなサービスを構築したいと考えている場合</p> <p>外部のベンダーとの関係管理が不要</p> <p>投資対効果を手頃やすく、ステークホルダーの支持を維持しやすい</p> <p>小規模な修正を加えやすい</p> <p><b>デメリット</b></p> <p>戦略的ソリューションではなく、短期的な方策的な「応急処置」に留まり、ソリューション全体の一貫性が低下するリスク</p> <p>既存の断片化されたインフラを拡張し、それに負荷をかけることが難しい可能性（例えば、リアルタイム処理への適応、データ量の多いISO 20022準拠メッセージの利用、オープンバンキングへの移行、付加価値の高いサービスの速やかな導入）</p> <p>要件分析や業務範囲の確定に極めて高い初期投資が必要（最善のソフトウェアソリューションを評価する場合は対照的）。エラーが発生し、期待外れや顧客の落胆につながる可能性</p> <p>コスト効率 - プロジェクトが複雑かつ高コストで長期化し、維持管理に多大な労力の継続投入が必要</p> <p>当初の段階で埋め込み可能な可能性がある「隠れた」コストが往々にして存在（ライセンスやインフラ要件など）</p> <p>プロジェクトの期間中にニーズが変化し、ソリューションの設計手法が十分にアジャイルでないために、急速に陳腐化するリスク</p> <p>レガシーテクノロジーを基盤にすると新しい人材を引寄せづらく、新技術ノロジーに社内市場で対応してもスキルギャップが露呈する可能性</p> <p>ピークトラフィックに合わせてインフラ規模や、市場、規制当局および顧客から要求される可用性、セキュリティ、拡張性、事業継続性の実現に多額のコストが必要</p>	<p><b>ベンダーソリューション購入</b></p> <p>専門性を社内で構築するのではなく、ベンダーの専門性を活用（世界的なクリアリングソリューションやシステムインテグレーション要件の理解、決済ワークフローや環境設定オプションのベストプラクティスなど）</p> <p>サポートを受けて、コンプライアンスや規制の変化に継続的に対応</p> <p>オペレーションの簡素化 - レガシーインフラに追加するよりも低コストかつ低リスク</p> <p>迅速な市場投入</p> <p>TCOの低減 - 特にクラウドソリューションを導入する場合</p> <p>モダナイズされたソリューションのアーキテクチャ（マイクロサービスなど）は、緊急性の高いニーズに優先して対応し、早期にROIを上げるマイクロトランスフォーメーション・アプローチもサポート</p> <p><b>メリット</b></p> <p>新たな決済ソリューションの導入は、抜本的な変革となるのが一般的。現在のオペレーティングモデルの見直しや修正を行い、ベンダーのソリューション能力を最大限に活用してROIを最大化するためには、十分な投資（時間と費用）と前向きな姿勢が必要。具体的には、以下のようなことが求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処理が特別なものではなく、コモディティ化している部分を受け入れる</li> <li>・現在は複数の部署やシステムに広がり、高い維持費用や二度手間につながるユースケースの合理化</li> <li>・低価値の業務から高価値の業務へのスタッフの配置転換計画</li> </ul>
---	---

個々の状況により異なりますが、成功にはベンダーとの連携が極めて重要であることに気がつき始めている金融機関が増えてきています。クラウドを導入し、ペイメント・アズ・ア・サービス（PaaS）を利用することで、テクノロジーのアクセシビリティはこれまでになく標準が高まっています。







銀行の規模にかかわらず、決済機能の自社開発はもはや不要であり、多くの場合、効果的なパートナーを見つけるよりもずっと高コストで非効率です。これは、基盤的機能を据えてその上に競争優位性を構築する場合でも、ターンキーソリューションを提供する場合でも同じです。

## デジタルオープンバンキングの課題に対応するモダナイズされた決済システム

大手金融機関は、進化し続ける市場から突き付けられる数々の課題を克服し、存在意義を維持するために、モダナイズされたオープンソリューションである「決済ハブ」を導入するようになっています。

決済ハブは、さまざまな種類の決済処理（バルク/ACH、高額/RTGS、リアルタイム/即時、クロスボーダー）を、単一の標準化された集約型ソリューションに統合します。集約型ハブ・ソリューションは処理効率の向上や運用コストの低減に資するだけでなく、金融機関が新商品や付加価値の高いサービスを市場に投入するまでの期間を短縮でき、競争優位性を築く基盤にすることもできます。

## 決済ハブの主なメリット

 <p>運用効率の向上</p>	<p>あらゆる決済タイプについてエンドツーエンドの決済処理をまとめ、自動化する一貫化されたシステム</p>
 <p>可視性やレポート能力の向上</p>	<p>集約化・標準化されたISO 20022準拠の決済データを利用</p>
 <p>不正防止機能の向上</p>	<p>要件を一元的に導入し、不正防止や規制コンプライアンスが向上（各決済ストリームで別々に導入しない）</p>
<p>複数の決済システムとその他の銀行システム間の複雑な統合はもはや不要。高度な自動化やSTPを活用し、ビジネスルールを適用して構成</p>	 <p>運用コストの低減</p>
<p>取引ワークフロー全体で可視性や透明性が高まり、付加価値の高いサービスで価値提案を強化</p>	 <p>顧客体験の向上</p>
<p>一元管理により、断片化された複数の決済システムに関連するリスクを低減。</p>	 <p>リスク管理の改善</p>

## Finastra Intelligent Payments Hubの導入



## Finastra Global PAYplusの主な特長

 <p>あらゆる決済タイプを処理</p> <p>高度なSTPで、ACH、RTGS、SWIFTおよび即時決済のエンドツーエンド処理を自動化。</p>	 <p>一元的に管理し、決済業務を追跡</p> <p>ユーザー定義のクエリ、エラスティック検索、処理に関する完全な監査証跡、流動性リスクに対するグローバルなビューなど。</p>	 <p>包括的なワークフローおよびビジネスルール機能</p> <p>事業の特性に遡る成熟したワークフロー、多通貨対応、あらゆるオペレーティングモデルと調和するマルチエンティティ組織構造。</p>
 <p>設定可能なユーザーインターフェース</p> <p>ユーザーはエクスペリエンスやコンテンツを管理、簡素化、合理化することにより、リスクを識別しタスクに優先順位を付けることができます。</p>	 <p>モダナイズされたアーキテクチャ</p> <p>APIやマイクロサービスをベースとしたモジュラーデザインにより、必要に応じて新しい決済ルールやサービスを追加できます。</p>	 <p>プラットフォームやマーケットプレイスに対応</p> <p>FusionFabric.cloudを組み込むことで、フィンテック、金融機関、その他機関のエコシステムが提供するサービスを活用し、イノベーションを加速します。</p>

Finastra Intelligent Payments Hubは、アイテ・ノバリカ・グループのペイメント・ハブ・マトリックスで業界最上位と評価されました。